
ラブラブ夫婦転生物語 in ゼロ魔

がろうでん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラブラブ夫婦転生物語 in ゼロ魔

【Nコード】

N0180W

【作者名】

がろうでん

【あらすじ】

ある新婚ほやほやの夫婦が事故でゼロ魔の世界に転生。夫は才人嫁はルイズに……。しかも二人には、神からチート特典が与えられた。無論、原作破壊です。ルイズがツンデレ、才人が屁垂れじゃないとイヤな方は、ご遠慮願います。

転生しよう

ここは、関東近郊のドライブウェイ。新婚ホヤホヤラブラブの夫婦が山道を車で走っていた。日は、暮れていて車のライトだけが頼りだ。

「ミッチー御免よ、こんな遅くになってしまつて」

「いいのよヨッシー、イチゴ狩りは楽しかったし後ろの座席に一杯お土産を貰ったわ」

「そう言ってくれると助かるよ。また行こうね」

「うん！」

しばらくして峠を差し掛かると車の横に白い老人が着いてきて後ろの座席を覗いているではありませんか……。

「まさかここつて……つい最近、ネット上サイトで噂になつて出没するっていう”ジェットジジイ!!!!!!”」

「ナニそれ！……ヨッシー……」

車は猛スピードを上げてジジイを振り切ろうとしたが、しつかりと車の横に並んでいる。田舎の山道の夜中なので二車線で対抗する車はいないが、カーブに差し掛かると陰から対抗車が現れて相手方のライトの光がまぶしく操縦を誤って二人組を乗せた車は、谷底へ転落した。

「うわあああああああああああ．．．」

「ヨッシー！！！！！！！！！！」

まっ 白い空間に二人の男と女、白い仙人風の服装をしているジジイが立っていた。

「ここどころだろう……って、あなた何なんですか……」

「ヨッシー……」

「ワシは、お主たちが神と呼んでいる者じゃ。一言いって」すまん！お主たちが乗っている車の後ろのイチゴがおいしそうに見えるのう・・・あんな事故につながるとは思いもしなかった。お主たちは死んだんじゃよ」

「え！・・・！あんたの仕業か！どうしてくれるんだ・・・これからの僕たちの人生を返せ！」　「そうよそうよ！もつと上の神様に訴えましょうヨシリン」

「そうだねニッシー」

「ちょっと待った!!!!!!!!!!!!!!それだけは勘弁してくれ。お詫びにどこかの世界へ転生させてやる」

「じゃあ私は、『ゼロの使い魔』のルイズに転生したい！しかもチート付きで・・・ヨッシーは、サイト君ね。私は原作と違ってサイト君を大切にしたいの」

「ちょっと待てよ！なんでサイトなの・・・なんでゼロ魔！なんで俺がサイトだYO（＞＜）」

「だってルイズとサイトって何だかんだでお似合いのカップルだもん？」

ヨッシーにとって才人は、屁垂れ・軟弱・馬鹿・お前それでも日本人がYO・・・の印象がある。

「わかったよ！神様、サイトに生まれ変わるんだっいたら俺にもチート着けてくれ！今からこれだけの念波送るからよろしく」

・・・

「なんじゃ、こりゃ！チート過ぎるぞ！」

「これを聞き入れないと上の神様に訴えますから」

「ヨシリン、なんなの？ヨシリンのサイト君用のチート能力って？」

「それは、後でのお楽しみ」

「くっくっく・・・！！！！！！！！足元見よってからに・・・。
これも背に腹は変えれんか」

神様は、手を上げて光を二人に向けて照射した。

「じゃあ行つて来い！」

光は、二人を包み込み上空へと消し去った。

「食い意地張るんじゃないかった………」

才人とルイズの願い設定

平賀 才人・・・ヨッシー

- 1、ドラゴンボールAFのサイコーの特性を持つ (大猿不可)
- 2、気を感じて操ることのできる能力・H×Hの念能力
- 3、スーパー化した時は、「幽々白書」の仙水の「聖光気」を纏う
- 4、地球とハルケギニアを行き来できる能力
- 5、あらゆる次元の怪我・病気を治すことのできるヒール能力
- 6、とあるの一方さんのベクトル操作・演算処理能力とIQ200の頭脳
- 7、地球世界の武道武術格闘技の習得とGT終了時の孫悟空・ベジータ・クリリンの技の習得
- 8、無機物創造・クリエイト生産工場や兵器などを作成可能、作成する物の外観と機能をイメージする事で作成可能
- 9、知識の本棚・ブックシェルフノウレッジあらゆる全宇宙世界の知識が収納されている。王の財宝の様に召喚できる。呼び出すときには欲しい知識をイメージすることで検索できる

10、精神力無尽蔵。無限の財宝（ハルケギニアの金貨のみ）、王

ゲート・オブ・バビロン
の財宝を所持

1 1、機械仕掛けの神・デウス・エクス・マキナ各種機動兵器や様々な機械の設計図・操作マニュアル。現実世界、創作世界を問わずほぼ全ての設計図・操作マニュアルを収納。取り出すときは王の財宝のように取り出す

1 2、ガンダールヴ発揮時の戦闘力は、通常の10000倍

1 3、スタープラチナのスタンド能力・最大半径1000kmの魔法無効化能力

ルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール
ル・ミッチー

1、4系統オクタゴン、精霊魔法、虚無魔法全般を習得

2、地球とハルケギニアを行き来できる

3、精神力無尽蔵。無限の財宝（ハルケギニアの金貨のみ）、王のゲート・オブ・バビロン財宝を所持

4、才人召喚時の体形、164cm・B86・W57・H88

5、料理の腕前が5つ星レストランのシェフ並

6、IQ200の頭脳

7、FF、DQのシリーズ魔法全般使用可能

「足元見られてはこうするしかないわい」

才人とルイズの願い設定（後書き）

原作破壊は、チートが定番。

二人の性格は「ク○○○し○○や○」の野原家のお隣さんの○○ケ○家の夫婦です。

それぞれの目覚め

ここは、異世界ハルケギニア

「私は……!?…?…?…!」

目が覚めたら体が小さくなっていた。鏡を見ると髪がピンク色の欧米風の顔立ちの女の子。言語体系は、ハルケギニア語を覚えていて年齢は5歳。名前はあのルイズ！ルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール！「ゼロの使い魔」外伝「烈風の騎士姫」のサンドリオンとカリンの間に生まれた3女。姉が2人いて、長女は魔法学院の生徒、次女はついこないだ領地を親から与えられてそこへ療養している。

「ヨッシー……！会いたよう……」

前世の夫のヨッシーとの出会いは、ルイズに転生したミッチーが秋葉原でメイド服姿で歩いていた時に茨城のヤンキー集団に絡まれた。その時に空手系の格闘術の心得があるヨッシーに助けられたのがきっかけである。

それから二人は、付き合いだして結婚にまでこぎつけた。

あの事故で……！！張本人の神との取引でゼ口魔のルイズに転生した。今日は、魔法のはじめての練習の日。神との約束で4系統魔法つかえるのかな！？！？

前世の夫のヨッシーは、才人君に生まれ変わっているはずだ。それも多くのチート付きで……！

今のルイズは原作とは違い、4系統魔法、虚無呪文全般、精霊魔法、FF、DQのシリーズ魔法全般が使用可能になっていることが実感できるし精神力は無限大である。それに目覚め前の記憶もありハルケギニア語と日本語の使い分けもできる。

まだ裏切りのワルドと出会っていない！今のうちにヨッシーこと才人を確保！

「うん！いける……！」

はじめての魔法。母親のカーリーヌの元、魔法の系統判別は、すべての4系統がスクウェアアクラスだと判明した。錬金では、金を生成。火はマグマ。風は竜巻。水は洪水。

ルイズの魔法で城屋敷の大庭は、無茶苦茶荒れ放題になっていた。

「あちゃー！やりすぎました……！」

「な……なんと！さすが私の娘です」

「お母様、折り言ってお父様と3人でお話しなければいけません」
ミッチー事ルイズは、自分が異世界地球人の転生者であること。これからおこるモード大公事件、ガリア王家の内紛。トリステン貴族の中にリッシュモン伯爵が他国から賄賂を貰い弱体化している事実・。。召喚者には、前世の夫だった才人君や神から与えられたチートを話そうと思った。

才人と婚約すればヴァリエール家に大きな財をもたらすことを話そう。

ルイズは、こう言ったことは多少受け入れられなくてもきちんと話しておくべき。アニメや原作じゃアホの王家やマヌケなオスマンから虚無について口止めされていたが、親に言わないのは人としてどうかと思う。

まずは、親に相談するべきね。例え受け入れなくても今後の打開策に繋がるから。

地球

「ふあああゝ！よく寝た・。。・俺ってこんなに小さかったっけ・。。・!？」

俺は・。。・あの平賀才人になってしまった。原作の通称・屁垂

れ君。とりあえず瞑想して意識内で能力の確認と……！年齢は、6歳の小学生。

『ようやく目覚めたな！一つ言っておくことがある。ルイズの召喚時に「龍王神界」へ行ってもらう。実はだな宇宙を統べるさるお方が龍王神界で君をヒーローとして鍛えたほうがいいとの意見があったんじゃ』

「え！誰？龍王神界？何それ……？」

『龍王神界はだな……ドラゴンボールのZ戦士であり神龍と合体した孫悟空がいる世界じゃ。たしかにお主にチートを与えたが、心の方がまだまだ未熟じゃからそこで数々の戦士達に揉まれてこい！その世界では、お主の老化を止めている。ルイズ召喚時に鏡が出現して吸い込まれるからそこへ入ってこい、狭間で掬いあげて龍王神界に送るからな！そこで立派な戦士になれば龍王神界の召喚の門をくぐり前世妻であるルイズの元へ現れる事じゃ』

「わかったそれまで自修練でもしときます」

召喚時まで前世の○真の空手道場へ入門して汗を流すか！

地球とハルケギニアを行き来できるんだったら高校の学業がおざなりになる恐れないよな。原作じゃ才人は、停学か退学扱いになっているぜ……。

俺は、そんな人生御免だね。

親にチートを話して、ハルケギニアで金貨生成して地球で換金しその金でアメリカの大学へ行こうか！

よし！学校から帰ったら親に話そう。

ルイズ一行、地球へ転移

ルイズは、3人きりで前世で地球での生活と事故でブリミルではない神にハルケギニアへ転生させられたことなどを両親に話した。

「私の記憶には、異世界人の記憶があります。これがお父様とお母様に受け入れられなければこの家を出て行こうと思います」

受け入れられないようだったら出て行って生活しよう……。無限の財宝の能力もあり金貨を生成できるし魔法学院の原作キャラに関わることなく地球で才人を探して一緒に住めばいいと思う。

公爵である父は、ルイズを抱きしめてこう言った。

「私のかわいいルイズ。色々な文献では生まれ変わりの話を知っている。ルイズが前の人生の記憶があっても私のかわいいルイズだよ」

「お父様……」

「ルイズ、このことは誰にも言うてはいけません。異端審問にかけられてしまいますからね」

「分かっています。しかし、ロマリアの異端審問なぞ怖くはありません。私はこの世界を滅ぼす力を持っています。無論、私の運命の異世界人の旦那様もハルケギニアを含めた惑星世界を木端微塵にする力を持っています。この世界のエルフがかわいい位にです」

「まあルイズ……。さすが私の娘です」

「カリヌ……。私のルイズ、絶対にこのことは内緒だよ」

「でもエレオノール姉さまとちい姉さまには、このことを言います。それに異世界の技術でちい姉さまを治せるかもしれません」

「魔法のない世界にかい」

「そうです。とりあえず転移します」

3人は、東京の新宿駅東口広場へと現れた。

「ここは……？」

「異世界地球の日本国の首都東京です。お父様、お母様、魔法を使ってみてください」

ルイズは、両親に話す前に異世界転移能力で地球へと行き、系統魔法・精霊魔法・虚無魔法が発動しないことを確かめた。DQ・FFの呪文も発動しなかった。地球には精霊素・魔力素がないから無理みたいだ。

二人は杖を取りだしライトから得意な魔法を発動しようとしたが全く発動しない。

「フライやウィンド・ブレイクも発生しない……………」

「ここは……………」

「周りの建物を見てください。これが魔法なしの文明です。取りえず金貨をこの国の通貨と交換できる所へ行きましょう」

前世でヨッシーの付き添いで金貨を購入したことがある。新宿のある金地金を売買する店へと向かった。普段、中世的な格好で人の目に着くけど、今日は歩行者天国の日みたいなので新宿通りの路上で色々な芸をしている人たちでいっぱいだ。

ルイズら一行もそのメンバーの一行とされているし、周りの通行人は気にも留めなかった。

「王宮のような建物に人が一杯・・・、人口は何人位なのだ」

「およそ一億二千万ですね。他の国を合わせた世界で五十〜六十億です」

「な、何…そんなに・・・」

「はぐれないようにしてください。おふた方はこの世界の言葉がしゃべれないのですから」

看板の 「金地金交換します」 があるビルの建物に入った。

店員にハルケギニアで生成した金貨を100枚をカウンターに置いて鑑定を頼んだ。数十分後に一枚10万で純度100%だそうだ。

しかし身分証がないと取引ができない。そこでも公爵と夫人は店員

「才人！テレビ見ないでちゃんとご飯食べなさい」

それぞれの日常

地球世界から転移して屋敷の執務室へ戻った公爵夫妻とルイズ。

「ルイズ、一体どうしたのですか・・・」

「あの店で何があったのだ。言葉は通じないし見たこともない・・・いや以前に場違いな民芸品の中に見たことのある文字があったよな」

ルイズは、あの店で”身分証明書”がないので金貨から日本国紙幣に交換することができなかったことを言った。

「これで私が異世界の記憶と始祖以外の神に貰った能力を信用してもらいますよね」

「それにして魔法が使えない異世界の文化、技術とは・・・あの街並みはすごいとしかいいようがない」

「トリステイン、ガリアやゲルマニアでもあの街など造れないでしょうね」

「私の前世の夫も生まれ変わって私と同じくらいな年齢で異世界にいます。その子と連絡取りその子の家族の伝手で異世界のギルド、カンパニーと交易すれば我が領内は、ハルケギニアで一番に栄えるでしょう」

「何としてもその異世界のルイズの前世の夫と連絡を取ることが先決だな」

「いずれ前世の夫が私に会いに来るかもしれませんが。その夫も異世界を行き来できる能力を持っていますから。私も時々地球へ行つてコンタクトを取ります」

ルイズは、父親である公爵にまずは領民の戸籍を取つて、住民税を収入の1割。所得税を5〜40%。実質15%〜50%の超過累進課税方式を取るように進言した。これは、貧乏人より金持ちがより高い税率を課されるという方式である。

領民には、年末の確定申告をきちんと提出させてるように！

商店、宿屋、ギルドの税率は、税率3割。それに伴う徴税官の廃止。ルイズの精霊魔法能力を使つての無料温泉の設立。医療と教育の無料。

当家直属のカンパニーの設立。

「カンパニーとは？ギルドが進化したようなものなのか？」

「ええ！そうですわお父様」

「平民に教育などと・・・」

「お母様もあの世界のすごさ見たですよ。あの国の民は、幼少のころから100%国民が教育する義務があるのです。貴族も魔法もない世界の基本が、教育なのです」

それからルイズの語つた話とは、公爵と公爵夫人の想像を超えるものであった。つまり、ラ・ヴァリエール家の資産を、個人保有の家

産と、カンパニーによる経営資産とに分ける、という内容の献策であつたのだ。

たとえば、土地屋敷や、各人の保有する各種物品は家産である。つまり、各人が好きに処分するなり使うなりできる個人所有のものである。それに対して、その土地を利用して農産物を生産したり工場を建ててに何か作らせるのは、これは商会に経営として任せ、商会への出資金に応じて利益を受け取る、という形態をとる。当然、手持ちの金融資産は銀行を立ち上げてそこに預け、運用益なり利子なりを受け取るという形をとる。

つまり、旧来の領地の個人経営から、家産と資産の分離による近代的経営について、ルイズは語つたのである。

「なるほど、家産と資産を分ければ、何か災害なり人災なりがあつて資産が失われたとて、経営を担当した商会が倒産するだけであつて、ラ・ヴァリエール家は再出発できるだけの財産が残るというわけか」

「左様でございます、お父様。ラ・ヴァリエール家とカンパニーの関係は、あくまで債権者と債務者という形とすればよいわけです」

「それに銀行を設立するということは、事業の拡大にともなう資本の準備も、いちいち我が家の資産から投資するのではなく、必要な資本を銀行から借り出し、利子を支払うという形でより多くの投資が可能となるのですね」

「お母様。きちんと利子を支払い、かつ堅実な経営を行うことで、返済期限がきても借り換えという形で最初に借りた分をもう一度借り直すことで、事業を継続させることができるわけです」

あとは領内の糞尿処理の仕方。これをするのもしないのでは、疫病の発生率が違う。

「それでルイズは、稼いだ金で社会資本を整備し、平民の教育程度を向上させ、交易を盛んにし、各国間との交流と影響を深め、この世界のあり方を変えようと考えているわけか」

「仰るとおりです、お父様。あの異世界の街並みと社会の様に」

聞きようによつては、まさしく既存の貴族制度の否定である。公爵夫妻は、娘ルイズに東京・新宿の街並みを見せられてそれに触発されていた。

「まずは、私の前世の夫がラ・ヴァリエール家を訪問することを願います」

（ヨッシーとその家族とつながが取れたら、お父様、お母様や魔法学院にいるエレ姉さま、他の領にいるちい姉様も時々連れていきましよう。貴族制度の破壊は、まずは地球文化のカルチャーショックから）

それからルイズは、屋敷の料理人に料理の改善を求めた。美容と健康にいい料理、日本料理を再現させ屋敷の料理人をうならせている。さすが五つ星レストランシェフの腕前だ。

ルイズこと前世ミッチーは、女子大で経営学と栄養学を学び、料理

学校へと通っていた。

原作ルイズがペタンコでカトレアが病気がち、長女が性格がきつくて胸が足りないのも料理人の栄養的な料理の問題だろう。

本作ルイズは、屋敷の料理人一同に栄養学やら日本食の造り方等を必死にレクチャーした。

ルイズが指摘するまでの料理は、味はうまいけどコレステロールがたくさんあり、栄養生理学見地から見ると早死の料理だとわかる。おまけに無駄に料理が多いし家族が残すのも分かる。

中世ヨーロッパ、ハルケギニアでは”栄養”という観念はない。だから50歳で大往生する貴族・平民が多い。

大食卓で母親カリンから料理が少ないと指摘をしたが、ルイズがこう反論した。

「食べもしないのに無駄な料理を造ることは不要です。料理は体を造るモノであって見栄を張り、見るモノではないです。無駄のない料理と栄養のある料理を食べた民族がそのような文明を造ったのです」

それからラ・ヴァリエール領では、税率1／3割、糞尿処理、当家のカンパニーの設立がなされた。屋敷では、料理の改善である。

ルイズは、系統魔法、精霊魔法、虚無魔法、DQ・FFの魔法の発動の確認と瞑想、前世にヨッシーと一緒に通ったジムのヨガ教室でのヨガを毎日鍛錬した。

魔法力のUPには、瞑想・呼吸法・ヨガが一番いい。

「ヨッシー……………才人君、どこなの」

才人は、学校から帰ると裏山でドラゴンボールのカプセルコーポレーションの宇宙船を創造能力で造り、10Gからトレーニングを始めていた。

まだ6歳なので柔軟、拳・指腕立て、腹筋、背筋、スクワット、シヤドウ、型をこなしていた。

それが終わると念修行に入る。

まずは、基本の纏、絶、練、発の4大行をマスターしていることを実感した。それに主に強化系、放出系、変化系等6つの系等が得意なことも確認。

スタンド能力もスタープラチナで時間を止めることができる。ベクトル操作でプラズマ球を造れる。

しかし、スーパー化できなくて「聖光気」を纏えない。これは修行しなくては無理だ。

「修行あるのみだ！目指せスーパー地球人」

しばらくは重力修行を纏の状態ですることにした。また、両親に頼んで近くのフルコンタクトの空手道場や古流武術の柳生心眼流の道場に通いだした。

重力修行で100Gを克服したらラ・ヴァリエール家を訪問しよう。

「ルイズ！ミッチー……待ってるよ！」

こうして1年が過ぎた。

才人、ヴァリエール家訪問と烈風との手合わせ

才人、ルイズ、二人の前世認識から1年が過ぎた。

ルイズは、たまに異世界へ連れて両親とカトレアに東京の街並みを見せている。もちろん魔法学院から里帰りのエレオノールにも見せていた。

ヴァリエール一家は、地球では魔法が発動しないし、ルイズ以外は言葉が通じない。地球文明の街並みに圧倒されていた。

難点なのが、身分証がないのと金貨を札束に換金できないのでカトレアを病院へ見せることができない。

才人へのメッセージとして銀行等の防犯カメラにハルケギニアで生成了金貨を放置して転移した。

それが、お茶の間のニュースになり話題となっている。

一方で才人も重力100Gに慣れて地球世界武術格闘技、Z戦士の技、念能力も上達した。そしてスーパー化で「聖光気」を纏った。それで気鋼闘衣も具現化できた。

さすがに親が心配するので家を留守にして仙豆で回復しながら数日間修行は、できない。1日に3〜4時間が限度だ。

念能力も強化系を中心として、放出、変化、具現、操作系で戦える強化系中心タイプである。特質系は習得していない。

「よし、ルイズに会いに行くか！」

ハルケギニアへ転移した才人は、ハルケギニアで強い気を探り舞空術で目標めがけて飛んでいった。気のぶつかりあう気配がする！戦っているのか。

「あっちだ」

上空を飛んでいるとピンク頭同士が、杖を持っていて魔法で戦っていた。

才人は、魔法無効化粒子を200mくらい「円」で広げた。そして二人の目の前に降り立った。

「え？まさかヨッシーなの？」

「今は、平賀才人と名乗っている。前世はヨッシーと嫁から呼ばれていた・・・ってミッチーなのか？」

『あなたは何者です。ウィンド・ブレイク！・・・発動しない』

「言葉わかります？僕は、平賀才人と言います」

「ヨッシー、通訳するね」『お母様、こちらは私の前世の夫です。』

名前を平賀才人と言います。家名がヒラガです。名前はサイトです」

『異世界の民人ですか。魔法のない貴族・平民の身分が存在しない世界の・・・』

『そうですわお母様』

「ミッチー、いやルイズ、この人烈風のカリンって呼ばれてんだろ。勝負させてくれ」

「いいけど、今、お母様も私も魔法が発動しないのよ・・・ってヨッシーの仕業なの？魔法が発動しないってのも」

才人は魔法無効を解除した。

「よし！やろうぜ！ルイズ、ジャッジ頼むよ」

ルイズはカリンに才人が勝負したいと言った。

『魔法が存在しない世界の人間の力を知るいい機会ですね受けて立ちましょう』

才人、カリンの二人が対峙している。

才人が気合いをこめると大気の膜が太鼓を叩いたような音が響いた。スーパー化で「聖光気」を纏い、具現化で気鋼闘衣を装着した。

才人からあふれ出した気が、目に見える半透明の球体となり嵐となつて練兵場を襲つた。

「ク……！すざましい力です。ウィンド・ブレイク……！！！！！！」

カリンの放った魔法が才人にぶつかるうとした時に才人は

「かあ……! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! !」

気合いでかき消した。

瞬間に間合いを詰めて才人はカリンを廻し蹴りで叩きこんだ。カリンは、地面をバウンドしながら転げ回った。

『あ・・・！クッ！』

カリンは、蹴られたときに杖を落とした。ヨロヨロと立ちあがると口から大量の血を吐いている。腕の骨と肋骨が折れたようだ。もう戦意が喪失している。

『参りました。さすがです・・・う！！・・・』

ボタンとカリンは座り込んだ。

「勝負あり！」『お母様！』『ヨッシー、なんてことしてくれたの』

ルイズはカリンに駆け寄りベホマの呪文を唱えた。手から放たれた光がカリンを覆って折れた骨や内臓の傷が回復していった。

『さすがです！さすがルイズの婿殿です。』

「なんて言ってるの？」

「ヨッシーのことを褒めているのよ」

3人は屋敷内へと入り、ルイズの通訳で才人とカリンは話し合った。ルイズと才人は、カトレアを治す力はあるけども地球の文明力を実

感してもらおうと地球の病院にカトレアを治そうと思っている。

ヴァリエール家の才人宅訪問とカトレアの入院

才人は、ヴァリエール家訪問から数日後に又、訪問しルイズの父親である公爵と面会した。才人は、クリエイト能力で言語思念学習機を造りハルケギニア語と文字をマスターした。

「お主がルイズの前世の夫か？」

「はい、平賀才人と申します」

「なんでも我が妻カリィヌに勝ち実力を認められたそうだな」

「自分の力など私が尊敬する神・英雄に比べれば微々たる力です」

才人とルイズは、カトレアを地球の病院へ入院し治療を受けさせるように言った。そしてまずは、才人宅を訪問して才人の両親に面会してカトレアの身元を引き受けることを提案した。

また公爵もルイズが錬金で生成した金を地球の品物と交換できるように才人の父親が経営している会社へと取引しようと思っていた。

数日後に才人は、ヴァリエール公爵夫妻、カトレア、ルイズを連れて才人宅へと案内した。夫妻とカトレアの言語の方は、言語思念学習機で日本語をマスターしていた。

後日、ルイズおとんが、王都の別邸にかくしてある「場違いな民芸品」・地球の週刊誌（エロ写真付き）を解読して興奮したのは言うまでもない。さらにそれを女房に見つかりボコボコにされていた。

「ルイズ驚くなよ。俺のお袋が前世の俺たち夫婦の近所に住んでいた野原さん家のひまわりちゃんだよ」

「て、ことはヨッシーって野原さんとお孫さん！」

「そうだぜ！でも俺達が前世、鳩ヶ谷夫婦だってことは内緒だ」

「うん」

才人宅では、夜中に会社から帰って来た才人の父親、母親、ルイズの父母、カトレア、ルイズ、才人で話し合った。

そして才人は、自分の父母に特殊能力の念動力や転移能力を見せた。そしてルイズが生成した金と地球との品物を交換すること、カトレアを治す為に力を貸してくれと言った。

「よし、これも何かの縁です。カトレア嬢を治療する為にいい医者」と病院を紹介しよう」

「よろしく頼む」

「よろしくお願いします」

数日後に公爵夫妻とカトレアは平賀夫妻の紹介の病院を訪れた。費用と身分証明は、才人父が工面していた。

検査の結果、白血病だ。幸いにもドナーが見つかってその協力者の元、骨髓間移植手術を受け半年間入院することになった。

その間には、ルイズの転移能力で公爵夫妻はお見舞いに来ている。エレオノールも紙幣があるので見舞いがてらに様々な本を大量に買い込んでいた。公爵夫妻も経営学の本、世界の兵器特集DVDと携帯DVD再生機を買いこんでいた。

才人父が経営する会社が、金貨や金を買取り、砂糖・塩・胡椒・トウガラシ等の調味料、紙、札束、他でもハルケギニアでは金になりそうな品物を地球世界で二束三文で手に入れていた。

才人も10歳となりIQが天才クラスだし実家の会社の経営が大黒字なのでアメリカへ留学して、4年間大学へ経営学を学ぶことになる。

日本って飛び級制度がないから駄目だね！

ハルケギニア滞在時には、原作介入イベントで高校の授業がいけなから先に日本より優れているアメリカの大学を卒業しようとするつもりだ。もちろんアメリカの大学までは、マッハ10以上の舞空術で日本の実家を通うか、瞬間移動で通っている。

ルイズの召喚までに修行三昧の生活を送るつもりだ。

ルイズも日本国紙幣を手に入れて、電化製品を買いこみDVDやらゲームを屋敷宅でやりこんでいた。ネット検索は、才人の部屋のパソコンを利用していた。

原作とは違い、ヴァリエール家はハルケニア有数のお金持ちになっていた。トリステイン王家と貴族の負債をクルデンホルフ大公国から買い取っていた。ちなみに税率は、一割である。

公爵も近代領地経営に転換して村、町も栄えていたし、警備警察制度も導入した。

カトレアも完治したので15歳になるとトリステイン魔法学院へ入学していた。ちなみに才人とルイズは婚約者同士となった。

（ワルドフラグ折った！！！！！！）

ヴァリエール領は地球から持ちこんでいた通信技術で領内に盗賊・山賊が出没したら即殲滅体制を取っていた。

また、才人の母方の伯父の友人が、政府関係者なので自衛隊で使わなくなったトラックに64式小銃と弾薬等を手配し才人・ルイズが転移して、ヴァリエール家の兵士に配布していた。盗賊はもちろんオーク等の亜人も即殲滅である。

才人の母方の伯父は、新興財閥のグループの長であり、さる公家系財閥のお嬢様を女房にしている。いわゆる逆玉だ！

伯父の天性の運と才能もありだから一代で新興財閥を築いた。伯父の友人でもあるマッドな科学者に「異世界間ゲート」と「AMF発生装置」の設計図を渡してその製品を量産・開発化できるように依

頼した。

また、ルイズはアンリエッタ王女にも地球へ転移させて才人を紹介している。才人もウェールズフラグを折らないようにアンリエッタに接していた。

アンリエッタも地球の文化や才人が持つている歴史シュミレーションゲームや大河ドラマ・時代劇「水戸黄門」に触発されて「アホ」への道は脱却していた。でも母親のマリアンヌは、国王が亡くなっても王位は継がず引きこもりを決めていた。

才人とルイズは、ダンゲルテール事件、ガリア王家内紛には手を出さないように決めている。モード大公事件に関しては日本政府を通じて一家を事前に保護して地球・日本国で衣食住の便宜を図っていた。

ルイズは、リツシュモンの不正を調査するように公爵に進言したが、なかなかリツシュモンは証拠を残さなかったし、トリステインの9割以上の貴族が不正・中世圧政をしている。ヴァリエール領には、こういった領民が大量に流れ込んでいた。

リツシュモン一派の粛清とアルビオンのレコン・キスタの壊滅は、才人召喚後に行う予定だ。なお姉のエレオノールとジャン・ジャック・ワルドは婚約をしている。

才人もルイズも公爵に漫画「SHOUGUN」の70〜80年代のベトナムのボートピープルを支援するのを真似ようとしたらいいと進言した。普通ならこういった流民は厄介だけど、この施策で領内は益々ハルケギニア一金持ちになった。

ヴァリエール家でもルイズは、原作とは違い魔法もできていて頭脳は、賢者の如く。二つ名が、「賢者」となった。

王家の宰相マザリーニも公爵やルイズに国政の相談を時々している。ルイズは、いずれアンリエッタをアルビオン王家に嫁がせてヴァリエール家が王位の座に着かせようと思っている。その為には、父親をあらゆる面でフォローするつもりだ。才人とルイズの子供を国王に就かせる算段である。

こうしてルイズが魔法学院へ入学して、2学年生の進級試験、召喚の儀式へと幕が開けた。

原作前の介入

ルイズが、魔法学院に入学して学院生活に慣れていたころ、才人は数年前にアメリカの大学を卒業して父親の会社へ就職した。ハルケギニアのルイズ一家との交易を担当している。

王都の武器屋でルイズはデルフリンガーをゲットした。ガンダにデルフは最高の組み合わせだからだ！

原作とは違いルイズはチートで魔法ができて筆記試験も優秀である。ただし原作と同じように他の貴族とは距離を置いているが、寮となり部屋のキュルケとは友達になっていた。ビリエや他の女生徒の企みによるキュルケ VS タバサ の決闘を阻止してタバサとも仲がいい。また、ルイズは学院内で貴族が平民使用人にちよつかいをかけている場面があると圧倒的力でその貴族達を制裁していたし教師からは「触らぬ神にたたりなし」の状態だ。

その間、ルイズはマルト・シエスタら学院の使用人達と仲良くなった。そして地球へ転移して才人にシエスタら魔法学院の平民使用人を紹介している。

シエスタの曾祖父は、佐々木武雄氏であった。もう亡くなっており、もちろん早めにタルブ村でゼロ戦を回収して才人の伯父の友人の伝手で靖国神社の遊就館に寄贈した。

平賀一家は、知り合いの政府関係者の伝手で佐々木武雄氏の親族を探し出してシエスタと面会させていた。そうして入学から数カ月でタルブの佐々木一家は、日本政府に土地・建物を用意させられて転移していくのであった。

ハルケギニアなんざ紛争地帯と変わりないですから・・・日本の佐

々木家の要望でもあった。シエスタは、ルイズが学院を卒業するまでに働く予定である。

ルイズパパのピエールは、日本の大河歴史ドラマや戦国武将の生きざまや刑事モノの銃撃戦：特に織田信長の魅力にあこがれていた。その役者の○徹夜の影響もつけたかどうか・・・「西○警察」の金髪角刈りの大門カットにサングラスのスーツ姿である。

ルイズ一家は、時々ルイズの転移能力使って日本へ訪問しているからブリミル体制の在り方に疑問を持ちトリステイン王家を乗っ取ってやろうと画策している・・・、晴れてエレオノールはワルド家に嫁いでいった、もちろんワルドも日本に招待して特に秋葉原とかにハマった。聖地なにそれって感じだね。

カトレアは、日本の大検を受けて合格して獣医の道へと進み日本で獣医師クリニックを経営している。

ルイズパパはいつも外出するときは、自衛隊から購入した64式自動小銃である。って、あんだ貴族メイジだろうが杖に誇り持てよ！日本政府も異界人に財政難だからって錬金した金と銃器類を交換するなよ！原作外伝の”サンドリオン”何処へ行った。

金は、ドットでも水銀を金に錬金することが少ない魔力消費で生成することができる。領内の土メイジや隠れ精霊魔法の使い手に金のインゴットを生成していた。

領内では「禅・瞑想・呼吸法・ヨガ・仙道」等の東洋的鍛錬で精霊と交信できて精霊魔法が使えたりしている平民が続出している。その為に日本からAMF装置を領内の要所に取り入れていった。無論、貴族の魔法を使った無礼討ちはない。領内にイチャモンつけてくる神官もヴァリエール領の警備兵が装備する64式自動小銃で手下メ

イジ共々餌食になつてゐる。

日本政府は、才人の伯父が経営する野原グループから渡された「異世界転移装置」「AMF装置」を自衛艦・車両・航空機に設置してそれを武器にハルケギニア以外の無人無主無政府状態の大陸……・疑似南北大陸、疑似オーストラリア大陸を領有化していた。

ハルケギニアでは、ヴァリエール一家しか交易していないが、東方ロバ・アル・カリイエの方面の国々では、立憲君主制度の国々で文明形態は19世紀後半の文明形態でありエルフとも交流がありブリミル体制のハルケギニアとは違うので通商条約、平和友好条約を結びその伝手でエルフのネフテス国とも条約を結んだ。

東方の国もエルフの国もハルケギニア人を「蛮族」として輕蔑している。

米中露なら大量の軍を動員してハルケギニアへ侵攻するが、日本はそんなに兵力が少ないので平和路線に徹している。領有化した大陸に大量の浮浪者・生活困窮者・ニートを送り込んだおかげで失業率は0%になった。後にアメリカ等の国に異世界の存在がばれるがそのころにはその惑星のほとんどの無政府状態の土地は日本が領有していたし、異世界間ゲートも日本独占だったので他の国は手も足も出ない。

ルイズの進級試験が始まるとの報告を受けた才人は、原作と同じように秋葉原へと出向いた。そして鏡が現れる……

龍王神界での修行

鏡を潜ると目の前に……

「おめえが才人って奴か！オッス、オラ孫 悟空だ！よろしくな」

鏡から出て来た才人の目の前にはあのアニメ・漫画のおなじみのあのがれのヒーロー、その名は孫 悟空がいた。

才人は、悟空に転生した時の能力の話やこれから前世女房のルイズに召喚されることを話した。悟空も他の世界の神から才人を鍛えてやってくれと依頼を受け、才人は伝説のヒーローに指示することを非常に喜んだ。

才人が着いた所は、「龍王神界」といつて神龍達^{シエンロン}が住むはるか上位の世界だ。おまけにこの世界では才人は年を取らないように設定されていることを悟空から話があった。修行期間は、100年。GTシリーズ最後の敵役だった7人の邪悪龍や地球の神龍、ナメツク星の神龍など紹介された。

ポルンガとか大型の神龍ってこの世界じゃ人間サイズなんだね！

そのあと修行開始。まずは悟空が才人にフルパワーで戦闘力をアップさせると指示をだした。才人は超化で体から聖光気を発現させて鎧化させた。

「ほう！こりやすげえや！ヨシ！オラも！！！」

悟空は、スーパーサイヤ人5へと変身した。

「よし！手合わせしてみつか！」

「はい！よろしくお願いします」

才人は十字礼を切り、悟空は抱拳礼で一礼して互いに構えをとる。

才人は、ボクシングスタイルの左構えに対し、悟空は中国拳法の長拳の構えを取った。摺足で間合いを少し詰めるとジリツと靴が地面に擦れる音がする。

それを観戦する邪悪龍7人衆は既に観戦モード。興味深そうに才人の出方を伺っている。

そして………二人が消えた。

互いの見えない突き蹴りの衝撃音が炸裂している。しかし悟空の方が上手だ！

「こつちだ」

「え」

ドンー！！

「うわっ!!!」

悟空が目の前に現れたかと思うと、ものすごい衝撃が全身を襲ってきた。才人はその衝撃によって、まるで交通事故の様に吹っ飛ばされた。

しかし、すぐさま立ち上がり体制を立て直す。やっぱり超人クラスはすごい！

「うん、やっぱり、まだ目だけで追う癖が抜けてねえな。空気のちよとした流れなんかにも注意しろ」

「オス」

悟空の攻撃は、戦闘力や身体能力に任せただけの攻撃ではなく、その動きはかなり洗練されていた。

常に才人の死角から急所に向けて正確な攻撃を繰り出してくる。才人もその攻撃に対応するべく更に集中力を高め、悟空の攻撃を受け流していく。たまにカポエイラ等の地球の武術格闘技をマスターしているので技を繰り出すけどすべて見切られていた。

才人はスタンドも出現させ才人自身本体と2体同時の攻撃も相手にはならなかった。やっぱりや！しかもベクトル操作で悟空の攻撃を反射しようとしたが、側面及び後方等の死角に関しては悟空の超スピードもあり演算処理能力が追いつけず反射できなかった。おまけにこの世界では、スタンドの時間停止能力が発動しない。

「よし、今日はここまで！」

「あ、ありがとうございました」

6時間後、ボロボロになった才人を前に悟空は修行の終了を告げた。
6時間もスパリングするなんて初めての体験であった。
地球の空手道場でも練習は長くて3時間で、スパリングは最長で
1時間であり無茶苦茶手加減していた。それを悟空との初稽古で6
時間とはきつい。

「これを食べる」

悟空は才人に一粒の豆を渡した。そして口に放り込むと……………。

「コリコリコリコリコリ……………」

才人の体力が回復した。これは仙豆だね。

たまに西銀河出身の達人のパイカーハンさんとか全銀河あの世の達人・邪悪龍の7人のメンバーさんと組手をしている。しかも才人は山吹色の○悟の亀仙流の道着、下に60kgのTシャツに各20kgのリストバンドとシューズを着けて組手をしたり、瞑想などして100年過ごすことになる。

おまけにスーパー地球人2にも進化できた。形態は、鎧化にオーラスパークを放っていた。

～召喚の間～

召喚の水晶の前に才人の他、悟空、ポルンガ、邪悪龍7人衆他の神龍達やあの世の達人たちがいた。みんな才人を見送っていた。

「達者でな！才人」

「色々とお世話になりました師匠」

悟空は、一握りの袋をサイトに渡した。中を見てみると仙豆である。

「これは・・・！」

「餞別だ持っていけ、中身は減ることのないようにしてあるからな」

「ありがとうございます、師匠。それでは行ってきます。みなさん達者で！」

水晶から放出した光は才人を包み水晶へと取り込んでいった。

召喚！（前書き）

ゼ口魔の疑問で、もし原作才人が「地理・歴史」に精通してサバイバルに長けている人間だったら「東方」ロバ・アル・カリイエへと逃亡していると思う。

召喚！

才人は、100年間龍王神界で悟空との修行三昧を送って年を取らないままにルイズに召喚された。

「ヨっす！ミッチーすげー久しぶりだな！」

「昨日、会ったばかりじゃないって、なんか体つきとか変わってるよ・・・って、ドラゴンボールのZ戦士の山吹色の道着じゃない！おまけに〇悟だなんて・・・」

才人の身長は187cm、体重93kg、体脂肪7%である。

他の魔法学院の生徒はガヤガヤ言っているが、マジでうざい奴らなので才人は気を放出させて威嚇をした。

バン！

空気が辺りにはじけて才人から黄金色のオーラが殺気と共にほとばしった。

雑魚貴族はビビっているけど、禿のコルベールと青髪のタバサは杖を向けて警戒している。他の使い魔はすべておびえていた。

（杖むけんじゃねえ！！！！）

その瞬間に広場にいるルイズ以外のメイジ貴族の杖は、ことごとく真つ二つに折れた。もちろん各自隠し持っている予備の杖も折れている。才人の念能力で折った！100年間の龍王神界の修行は伊達じゃないぜ！

ピッコロも天下一武道大会で報道陣のカメラをぶっ壊したな！そんな要領ですね。

「先住か……！」

「杖が……」

そんな奴らを尻目に才人はルイズに契約を早くしろと催促をした。

「とつとと契約しようぜ」

「ヨッシー……何それ！？ドラゴンボール入ってるわね！」

「細かいことは後で話すよ」

才人はしゃがんだ。

「我が名はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール。五つの力を司るペンタゴン。この者に祝福を与え、私の使い魔となせ」

呪文を唱えてルイズは才人に口付けをした。周りは、さっきの才人のパフォーマンスが効いていたので訝々しながら見守っていた。

そして左手には文字が出現した。原作じゃ才人が痛がつて気絶したんだっけ！しかし、チートの体じゃ熱くも痛くも感じないぜ！ルーンを刻まれた才人は、コルベールに左手のルーンを見せた。ガンドをさっさとスケッチしろ。

「ほら早くスケッチしろ」

「君は何も痛くないのか……」

「フン！猿めが！」

才人にビビっているコルベールはスケッチが終わると各生徒を授業へと戻した。ルイズ以外のメイジの杖は才人が念能力で折ってしまったのでルイズ以外は歩いて学舎へと戻った。

本作では二つ名が「四帝」だそうな。

才人にとっては久しぶりだが地球の実家へと帰還転移し、ルイズは授業へと戻った。昼飯時には、ギーシュの決闘へとハルケギニアへ転移するつもりだ。また、恥をかくシュヴルーズの授業なんぞボイコットだ！その辺はルイズも理解している。

ルイズは授業が終わると、才人の実家に転移して近くのカフェで、才人が龍王神界で孫 悟空の元で修行したことを話した。

そしてルイズが先にゲットしたデルフリンガーが才人の手に渡った。受け取りは魔法学院のルイズの部屋だ。地球に持ち込むと起動しないし銃刀法違反でトラブルの原因になるからだ！

「おめくが新しい相棒か……って、何モンだおめく……」

「俺は才人。よろしくなデルフ！」

また、フーケことマチルダとテイファは早くもアルビオンのモード家ごと日本政府の元で保護しており地球の保護施設で生活していたので、フーケ事件は起こらない。ちなみにフーケことマチルダは、“怪盗”ではなく日本政府のエージェントとしてハルケギニアで“場違いな工芸品”の情報収集に力をいれている。

召喚！（後書き）

次は決闘ですね。

決闘にすらならない

才人は、魔法学院の昼飯時に転移して厨房へと訪れた。

「オヤっさん！才人っす！メシ食わしてください。これ土産っす」

「よう！才人！たんまりとうまいモノ食わしてやつから待ってるよ」

以前にルイズの紹介でマルトーとシエスタら平民の使用人達とは顔見知りになっていた。それに学院の平民達はルイズが教えたヨガ・気功呼吸法・瞑想等で皆、精霊魔法が発動できるようになっていた。ルイズは前世がミッチーの時にはヨガ教室のインストラクターをやっていたこともあるだろう。

言葉の疎通も召喚・契約のおかげで前よりスナリとできた。

目の前のテーブルの前には大量の料理がある。なんでも手を着けていない貴族生徒の食べ残しだそうだ。

ドラゴンボールAFのサイコーのサイヤ人としての特性を持った才人はバクバクと食い始めた。

才人の見事過ぎる食いつぶりに触発されたマルトーは、本当に余りものの食材を余すところ無く使い、

尋常ではない量と種類の料理を用意していた。ルイズと同様に才人にもお世話になった事があるからだ。ルイズと才人の付き添いで地球でレストランなどの料理を堪能したことがある。

テーブルの上には10～15人分、テーブルに乗りきらなかった分や鍋に残っている分を加味しても60～70人分はある。

とても普通の人間が賄いと呼べる分量と種類ではない。
中にはこのまま貴族に出してもいいんじゃないかと思えるくらい豪
勢な盛り付けのものもある。

「ゴチになります」

「おう、食えるだけ食べ！ 無理なら残してもいいぜ。どうせ元は
捨てなきゃならんものばかりだからな、がっはっはっは！」

10数分後、全ての料理が才人の胃袋に収まった。

そのあとには、シエスタと一緒に配膳のお手伝いをした。

（ここは原作では、シエスタがギーシュに絡まれるのか！そうは問
屋がおろさせないぜ！）

薔薇の杖を持っている奴を見つけた！あれがギーシュだ！ギーシュ
ら男子生徒が何やら話していて、その足元には瓶が転がっていた。
そしてギーシュに

「これは落し物！」

「これは僕のじゃないよ」

デブの奴が大きな声で

「あ！これはモンモラシーの香水だ！ギーシュ、お前はモンモラシーとつきあっていたのか！」

あとはケティって女の子が出てきてギーシュにビンタ、おまけにドルル髪のモンモラシーが出てきてワインをぶっかけた。

そしてギーシュい因縁吹っ掛けられてお決まりの決闘宣言でヴェストリの広場へGO！

原作では貧弱な才人が馬鹿無謀にも挑んでいたが、本作ではZ戦士であり念能力にスタンド・ベクトル操作の能力者である。

広場の大半が貴族生徒である。全員、才人の死を望んでいるってのが分かる。

（上等じゃねえか！）

「僕の二つ名は『青銅』。青銅のギーシュだ。従って、青銅のゴーレム『ワルキューレ』がお相手をするよ」

「さっさとかかって来い！」

ギーシュが手に持った薔薇の造花を振るうと、零れ落ちた花卉から甲冑を纏った優美な女性型のゴーレムが生成された。

ワルキューレが才人に向かって突進する。

が、それよりも遙かに速く、才人はワルキューレとの間合いを詰め

た。

「せいや!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

ボコ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

上から振り落とした才人の鉄拳は、ワルキューレを上から叩きつぶし地面にクレーターを造った。さらにその衝撃で大地が揺れて鉄拳で造ったクレーターを中心に地面に亀裂が入った。

才人のチートに動揺してパニックだったギーシュは六体のワルキューレを出現させた。

「ここが貴様の墓場だ!」

そう言って放たれた右拳の一撃が、ワルキューレを粉々に粉砕してしまう。

貴族生徒観客一同は絶句した。何故ならただの拳の一撃でワルキューレを粉砕してしまったのだ、開いた口が塞がらなくても仕方が無いだろう。

残りの五体を即、拳足で破壊し尽くした。

才人はギーシュへと近づいた。するとギーシュはレビティションをかけて才人を行動不能にしようとしたが……。

「こんなモノ!ハン!!!!!!!!!!」

ボン!!!!!!!!!!!!!!

ていた。ドラゴンボールの悟空・ピッコロ VS ラディッツの
ピッコロの必殺技 魔貫光殺法の一発目にラディッツが回避して山
を削り取ったみたいになだ！

周りは、エルフだとか先住だとか貧弱な価値観で才人を計っていた。
それゆえに二次作お決まりの闇討ちはなかった。

ルイズが駆け寄ってきて抗議をした。

「ちょっとヨッシー、やりすぎよ！もう……」

「ゴメン！調子に乗りすぎたよ……」

ルイズは駆け寄るなりギーシュに”ベホマ”をかけて怪我を一瞬で
治した。

才人は、空間にオスマンが鏡で覗きをしていることを察知していた
ので、念力で鏡を粉碎した。

～学院長室～

「奴は何者じゃ……！！ツルペタ君、このことは王宮には内緒

だぞ」

「分かっていますよ。ポケマン学院長」

「それにしても鏡が・・・・・・・・・・唯一の覗きの楽しみが・・・・・・・・」

二人の目の前には破片が散らばって行った壊れた鏡があった。

メイジ共のカルチャーショック

決闘から数日経ち、才人の噂は学院中で話題となっていた。教師・生徒間ではギーシュに圧勝したばかりでなく裏山を”先住魔法”で削り取ったルイズが召喚したエルフだと！

しかし、平民使用人間では召喚前から才人のことを知っているの、そんなに話題にはならなかったが、マルトーからは”我らの拳”とまで言われた。

地球にて才人を知っている使用人らにとっては、才人が貴族のゴレムを素手で破壊したりする超人的な闘いを目にするのは初めてである。

原作とは違い、精霊魔法が発動できる使用人達は貴族に隠れて魔法を行使しているが、貴族の鼻っ柱をへし折り裏山の削るほどの才人のエネルギー弾の威力を英雄視している。

才人は魔法学院の使用人と交流を深める為に昼飯時には地球から魔法学院の厨房へ転移して飯を食っている。

生活の拠点は地球であるからキュルケのちよっかいも他の魔法学院生徒のちよっかいも監視もない。才人本人はゼロ魔の貴族というのが大嫌いだであるから関わりたくないのである。

一度、ルイズが一学年のところに精霊魔法を使っている使用人を貴族生徒がブリミル教会に密告して聖堂騎士団が学院へ来たことがあったが、ルイズが異端審問の集団を赤い大国へ転移放置したことがあった。地球のニュースでは、その某国で暴れている中世風の集団が当局の武装警察に射殺されたとか！

それ以降学院では、平民でも何らかの修練を積み精霊魔法が発動

できるのが暗黙の了解である。ヴァリエール家の領内でも非マギ族の平民はルイズが広めた”ヨガ・仙道・気功”等を修練して精霊魔法が発動できる。また、ハルケギニア世界を含む惑星世界の北米・南米・オーストラリアの無人・無政府大陸に進出した日本人の中で陰陽道・密教・修験道・呪術に精通している者は、それらが発動している。

原作ではデルフのゲットにフーケ騒動があるが、デルフは原作前にゲットしてフーケは日本政府のエージェントであるから学院秘書はやってはいない。

今日は会社勤務が休みの日であり魔法学院へ転移して昼飯を厨房で食べるにいった。この日はフリッグの舞踏会のようなが才人には関係ない。

そのあと学院のエネルギー”気”が集まるポイント・中庭にて瞑想をしていた。エネルギーを取りこみ体内で練気をして循環させる瞑想呼吸法である。

そこへギーシュが現れた。

「やあ！使い魔君、探したよ」

「なんだてめえ、またヤルのか？」

「いや違うんだ！あの君との決闘の後、ルイズ嬢から君のことを聞いたんだけど僕を鍛えてくれないだろうか？」

「この場合は、リベンジじゃねえのか？」

「君に挑むのは自殺するのと同じだ！しかもルイズ嬢のフィアンセでもあり、あの『烈風』殿を唯一負かしたことがある君に戦士として鍛えてほしいんだ」

こいつそんなキャラだったのか？ま！いいさ！地獄見せてやるよ！

「僕の名はギーシュ・ド・グラモン。ギーシュって呼んでくれ」

「俺はZ戦士の平賀才人。サイトだ」

早速、ギーシュに学院の周りの走り込みを開始させた。ってゆゝか、ギーシュ脆い。もう2周でダウンしているし、遠くでデブやらメガネがギーシュの屁垂れ鍛錬ブリを見ている。

「おい！これ位でへばってんじゃねえぞ！！」

「僕ら貴族はそんな・・・体なんか・・・」

「ギーシュは、軍人の家系だろ。貴族云々前に軍人なら戦場で生き残る体力が必要だ！」

そのあとは、筋トレ・柔軟・気功・瞑想をやらした。このようなトレーニングを毎日させることによって数日後には、ギーシュはライ

ンクラスとなる。

才人も会社があるし勤務の合い間に見てやっている。会社勤務って言ってもハルケのヴァリエールとの往復が多いし、自由勤務で重役だから！

舞踏会へは、才人は貴族生徒でもないし行かないし、何より舞踏会は貴族のみ出席が許される。原作ではフーケ討伐の手柄としてオスマンが才人に許可を与えたのだが、本作ではフーケ騒動はないしマチルダも学院秘書ではない。

ダンスでチャラチャラするくらいだったらトレーニングでもしている。原作では才人はおバカだから何も考えずにルイズに言われるまま参加したけど、本作の才人はあいつた格差社会なモノは嫌いだからだ。

前世のヨッシーだった頃、ゼロ魔の才人の屁垂れブリ（鍛錬しねえ）とゼロ魔の格差社会を嫌悪していた。

又数日経ったそんな中でギーシュを鍛えていた時にルイズがコルベール、おまけにキュルケとタバサとモンモラシーを伴って連れて来た。

「ヨッシー……！準備Okだからコルベール先生や他の生徒を地球へ招待しようよ」

「え？サイトじゃなくヨッシーって名前なのか」

「それはルイズだけに許された呼び名だ！サイトでいい」

「えーと、私は魔法学院の教師をしているコルベールと言います。今少しいいかね。君の異世界の話を聞きたいんだが・・・」

「ミッチー、こいつらに地球のこと喋ったのか」

「うん！そうじゃないとヨッシーが逃亡したって思われるから」

「・・・そつか！ギーシュ特訓は終わりだ！みんなで地球へいくぞ。そのかわり使い魔は置いて行け。ドラゴンとか地球へ持ち込んだら当局に処分されるし大騒ぎになるから」

他にもルイズは、遠くで見ている男子生徒のマルコやメガネなどを誘った。

ハルケギニアから転移した所は、ルイズの姉カトレアが経営するペツト病院である。

カトレアは、病気が完治して魔法学院で3年間過ごしそのあとは、日本で大検の合格を経て動物医学の大学へ進学し野原グループのバツクアップの元で動物病院を経営していた。

動物病院をノックして出迎えたのはカトレアである。

「ちい姉さま！！！！」

「才人君にルイズ。あ、コルベール先生お久しぶりです」

「ミス・ヴァリエール、カトレア嬢ではないですか。なぜここに・・・？」

「取りあえずこれに乗って行きましょう」

そう言っただけでカトレアが指を差したのは一台のマイクロバスである。動物病院の留守番を部下のスタッフに任せて自分は運転。カトレアは地球生活に馴染んでいるって、完璧な原作破壊ですね。

はじめて地球を訪れるコルベールをはじめとする貴族メイジが、魔法を発動させようとすると全くの音沙汰なし。地球じゃ魔法発動のための”精霊力素””魔力素”がないから無理。これには、全員ショックを受けた。

向かう先は伯父の野原グループ本社ビル、お台場近く。世田谷から首都高に乗ってのドライブである。コルベールなんかはしゃぎ過ぎ、ルイズを除く他の貴族生徒はポカ〜んとした顔である。

「あれは、何かね・・・。こんな世界があるとは・・・。」

「魔法がない・発動しない世界の技術力はどうだ？この街並みがメイジのいない貴族のいない世界だ」

「貴族がいない・・・、国としてやっていけるのか・・・？」

そこは、コルベールや魔法学院の生徒に日本の立憲君主制度、議会

民主制度を熱く語った。幕末のころより外国の圧力で明治維新を成し遂げたことなどを！

日本は、大政奉還・版籍奉還・廃藩置県で武士階級という特権を捨てて天皇中心とする中央集権政治に移行して、太平洋戦争の経験し今の日本を築いたことを。

熱く語る才人の話にタバサは、何か思うことがあり真剣に聞いていた。他の奴らは政治について頭がついていけない様だ。オツムがたりね〜！

マイクロバスは、野原グループ本社ビル前に到着した。そこからは案内人に会議室へと案内された。

そこで待っていたのは、野原慎之介と慎之介の古くからの友人でもあり政府関係機関で働いている風間徹氏とそのほかのエージェントである。

「私はサイトの伯父の野原慎之介です。

迎します」

ようこそ地球世界日本国へ！心より歓

「おい慎之介！それは国家機関の一員でもある僕のセリフだぞ」

「そうとも言つ」

中世以下の価値観の異文化交流は、**軍事的恫喝が基本（前書き）**

地球に転移したハルケギニア一行。まずは、これをご覧あれ！

中世以下の価値観の異文化交流は、軍事的恫喝が基本

ここは、地球世界日本国首都東京。野原グループ本社ビルの一室である。カトリアは、ここまで送って帰って行った。仕事があるもんね。

ハルケギニアの一同は、大画面のプラズマテレビの映像と映画館並みの音量に圧倒されていた。内容は、地球の歴史・日本の歴史。字幕は、ハルケギニアの文字。

日本史ですらこれほどの激変を経ているのに、世界史はさらに巨大な変動を繰り返していたのだ。

巨大国家の成立、弱体化、小国の乱立や長大な交易路を介した文化の伝播、征服、抵抗、そして産業革命による文明や科学技術の発達。抽象的な宗教の弱体化と哲学や科学によって実質的に「神が殺された」こと。

6000年の間ハルケギニア内部や、強大なエルフと争っていた自分たちとはスケールがちがった。

もつとも、ヨーロッパと呼ばれた地域の歴史は、中世まではハルケギニアと似ていたが。

哲学と、古代帝国の文明の再発見、そして人権・民主思想の発生と新大陸での民主共和制国家の成立。保守的な王政国家での革命、これらに加えて、産業革命に代表される爆発的な生産力の増大が強力

な近代的中央集権国家を成立させた事実には戦慄を覚えた。
封建制度の崩壊が日本のような国を作ったのだろうか。

極めつけが、「富士総合火力演習」「アメリカ核実験」の映像である。

これらの映像は、日本政府による「砲艦外交」の意図がありありと隠されている。今までハルケギニアを訪れているヴァリエール一家とその家臣団・エレオノールの夫であるワルドもこの部屋で地球世界の軍事力を見ているし、日本政府から毎年恒例の「富士総合火力演習」の見物に招待されていた。

なんたつてハルケギニア人は特亜3国・北の大国より民度が低いから「力」で制し優位に立つべし。

ルイズパパのヴァリエール公爵はそのせいで、魔法なんかバカバカしくなり自衛隊から購入した64式自動小銃とリボルバー銃を装備している。領内の兵にも64式自動小銃とリボルバー等、日本国の旧式武器を装備していた。その指導には、陰陽道・呪術に精通したレンジャー自衛官を選抜した。メイジじゃないと舐められるし、ハルケギニアを含む惑星世界では、日本の呪術系がヘキサゴンクラスである。

系統魔法 < 精霊魔法 Ⅱ 日本の呪術・陰陽道 とレベル
差がある。

それにこの映像には日本国国家機関の「国民の生命財産、そして国家の独立と尊厳を全力で守る」ことを国旗に誓った者たちの責務の意図もある。

ハルケギニア組は・・・特に「富士火力総合演習」「原作映像」にぞっとした。あれが自分の領内で炸裂したらと思うと内心ガクガクである。

映像が終わり、一旦コルベールをはじめとする生徒達は、ハルケギニアの魔法学院へ転移する。次の日の虚無の曜日にじつくりと東京見物を行うのである。

ギーシュら男子生徒は秋葉原にはまり、キュルケら女子生徒は銀座でのショッピングにはまった。そのあとは、東京デイズツーリストでのバカンス。紙幣は、100万円各自渡された。

お土産身おいて、ギーシュとマルコはオタクにはまりフィギア類、キュルケは化粧品・お菓子。モンモラシーは、ドラッグストアの薬類・お菓子を購入。タバサは、大型本屋で地球の政治・経済・歴史に関する本。同じくコルベールは、機械工学・数学・電子工学・量子力学・天文・数理関係の本。

「ミスタ・コルベールにミス・タバサ！日本語が出来るのか？」

「私が日本語を教えるわ」

「ふーん！ギーシュ、おめえ軍人の家系ならそんな軟弱なモノ買うなよ。タバサは、本。モンモンは薬など買っているぜ」

「それは僕の勝手だろ」

「そう言うと思ってこれ渡しとくぜ」

液晶DVD再生機と電池、「世界の軍事」「世界の銃器」等地球世界の軍事関係のDVD10枚と「戦争論」をギーシュにプレゼントした。

「おめえらメイジは、銃の進化した怖さを知らない。もうすでにこの世界は、連発・遠距離の銃が当たり前だ！威力も性能もハルケギニアの銃とは全然レベルが違うぜ」

これにより将来、ギーシュは近代兵器と近代戦術にのめり込むのである。

アルピオン戦前の余興

コルベールら貴族メイジは、東京見物やショッピングに味をしめてルイズに転移をせがんでいる。才人は昼飯を食べに厨房のマルトーら使用人とギーシュしか交流はない。

ギーシュの鍛錬は、地球の実家の裏山地下基地内の人工重力装置10Gで筋トレ・型鍛錬をやらせている。なぜなら他の男子生徒が見物するし鬱陶しいからだ。

精霊力素発生装置と人工重力装置を作動させて瞑想でギーシュのMPを増やしている。他でも記憶増幅装置・言語思念装置でギーシュに日本語を習得させた。

「召喚から1ヶ月過ぎたときにアンリエッタ姫が、学院に立ち寄り”品評会”を行うとルイズから報告があった。

品評会にはスパロボの”グルンガスト零式”を披露させるつもりだ。地球世界才人の実家近く裏山地下基地内にある格納庫にそれはある。クリエイト能力で、製造した才人の傑作品だ！

才人がアメリカ留学前に一度ルイズが地球と一緒にアンリエッタを才人自身の部屋に連れて、ゲームやら漫画やらを読んだり時代劇などのテレビを見させてやったりしたことがある。それでもアホはアホらしい。

なにせ原作通りに勉強嫌いだし、IQテストだと72!!!!!!低つく~~~~!!!!!!ムチャバカじゃん!!!!!!

ちなみにギーシュは、74・・・・・・お前も馬鹿なのか!!!!!!!!!!!!~~~~!!!!!!タバサは102、コルベールは141である。
ルイズは204であり、才人も207である。

魔法学院でコルベール主催で学院生にIQテストを実施したところルイズ・タバサ以外の生徒は80以下であった・・・・・・バカの集まりじゃなかよ!!!!!!!!!!!!
文明が停滞しているのもハルケギニア世界の貴族はバカの集まりだから・・・・・・。原作のルイズも記憶とかの筆記試験はトップだけでも物事を応用する力はゼロでありIQが低いと思われる。

アカデミー在籍していたエレオノール（原作では在籍しているけど、本作ではワルドの女房）は、132である。原作じゃ始祖の像ってゆゝか国家繁栄の役に立たないモノを研究していたし・・・・・・でも地球の文化とか科学的なことは理解できている。

貴族って低能の集まりだね。でもジョゼフのIQって幾つだろうか？マジで高いかも・・・・!!ちなみに学院の平民使用人のIQは、100前後である。

普段、手先等の仕事運動しているからだろうか!それに彼らは毎日如何に貴族の無礼討ちから生き延びるか真剣勝負クラスに頭を使うからだ!

品評会当日、アンリエッタはゲルマニアからの帰りに魔法学院へ

立ち寄ること。ルイズパパは、ゲルマニアとの同盟には反対である。品評会から2日後には日本国の力を借りてレキン・コスタを殲滅させる予定である。そしてゲルマニアとの婚約・同盟を破棄させてウェールズの元にアンリエッタを嫁がせてトリステインの国王へと就任する予定だ。

そのためにも日本国の協力が必要である。日本国は”魔法”ではなく”陰陽道・呪術・修験道・密教”の”魔法”が存在しており、その熟練者がハルケギニア世界で術式を発動できることが判明している。

それらは”火・水・風・土・木・光”といった種類である。しかも杖なしである。彼ら日本国自衛官は、異端審問にかけられたら即座に交戦が認められるので、ヴァリエール領内の駐屯地に今までに口マリアから異端審問の集団が押し寄せて来たけどすべて交戦し射殺、生き残りのメイジを捕縛しメイタイと名付け、他の領有大陸にある魔法研究実験の餌食にしている。

他の貴族からのスパイも日本の諜報機関が始末と人体実験。国際法もない世界だからやりたい放題。日本政府関係者も特亜な国やアメリカ等に胃を痛められるばかりで異世界に来て陰でハッスルしてるよ！

おかげで日本国は魔法無効化技術と錬金の研究が進んでいる。

品評会は、アンリエッタ王女と魔法学院の生徒が見ている前でグルンガスト零式を披露した。あとでルイズから

「バンプレストから版權やら何やらで訴えられるわよ！」

と言われたがそんなものこの世界には無い。パツクてナンボ！

ルイズの番が来て、ウイングガストで裏山から姿を現し、会場でグルンガストにチェンジ！そして

「ファイナルビーム！！！！！！！！！！」

で学院近くの裏山をすぎましい閃光・爆音とキノコ雲が発生し、一つの山が消滅。

学院長、アンリエッタ、マザリーニらと魔法学院関係者も”アポーン！”放心状態。グルンガストのマークに”日の丸”マーク。

コクピットから才人は降り立ち、一礼。ルイズが壇上に上がり才人を紹介した。

「こちらは、異世界地球 日本国出身のサイト・ヒラガと申します。彼らの世界には魔法が発動しない世界です。この私もその世界に転移して発動しませんでした。魔法の変わりに”カガク”というのが発達していて彼らの世界には、ハルケギニアを含むこの世界を滅ぼす軍事技術があります。このゴーレムもその一つです」

観客席の王侯貴族達は、足がガクガク……！アンリエッタや他の魔法学院生徒は、才人とルイズに地球へ案内させられたときに映像で地球の兵器を観賞したり、ワールドも嫁のエレオノールと共にヴァリエール一家に誘われてルイズの転移能力で生の”富士総合火力演習”を見たり映像で地球の兵器を見たことあってカルチャーショックを受けたことがあるが……

グルンガストは、さすがに反則でしょう。いやあれは漢おとこのロマンだぜい！機体は王の財宝へ収納。

品評会のあと、地球の才人の家にルイズがアンリエッタを連れて来た。

「サイトさんお久しぶりです。実はお願いが……」

「分かっているよ。アルビオンのレコン・キスタを殲滅しろってことでしょう。そのかわりこれにサインして」

一枚の用紙とペンを渡した。

「これは……」

レコン・キスタを殲滅した後、アンリエッタはアルビオン王家に嫁ぎ、王位王権をヴァリエール家に禅譲するという内容である。

「姫様はアルビオンのウェールズ皇太子と恋仲でしょう。俺がレコン・キスタを殲滅してその皇太子様と結ばれてハッピーエンドになるか！見捨ててトリステインがレコン・キスタに攻め込まれるか！マザリーニはゲルマニアと同盟を画策して姫様を嫁がせようとしているが、ゲルマニアはトリステインをレコン・キスタに攻め込ませて疲弊した所で一気にトリステインを併合する算段だよ」

「そんな……」

「ヨッシー、なんてことを……」

「だって本当のことじゃん！姫様の母君は引き籠りで政務などできない。そこでトリステイン王家の庶子であるヴァリエール家が継ぐって算段だ！母君は地球で生活してもらっよ」

「これって姫様への脅迫じゃない！」

「皇太子見捨ててトリステインを滅ぼすか、皇太子助けて姫様と一緒にになってトリステインを救うか二つに一つだ」

アンリエッタはその書類にサインをした。

「わかりました。これにサインをします」

「契約成立」

「ヨッシーって超強引なんだから．．．」

「ルイズってサイトさんと．．．」

「それ以上言わないで．．．姫様．．．」

サインした書類をラミネート処置を施した。こうすれば長持ちするからだ。

そのあとルイズはアンリエッタを魔法学院まで転移させ、才人は空手道着に着替えて日の丸鉢巻を絞めてアルビオンへと転移していった。

アルビオン戦終了のお知らせ

アルビオンの上空へ転移した才人。念能力の”円”でアルビオン大陸の”軍気”を探った。

「あつちか！」

マツハで飛んで行ってみると崖っぷちの城を大軍が包囲している。包囲する大軍から外れの所で降りた。

そして王の財宝（ゲートオブバビロン）からデルフリンガーを取りだした。

「相棒、待っていたぜ！」

「デルフ、今日は斬って斬って斬りまくるぜ！」

才人にとってこれから行う”殺人”は初めてである。日本の法律では殺人は罪になるけど・・・ここ異世界だし国際法ないし”力こそ正義”だ！

デルフを背負って歩いてレコン・キスタの陣地前に到着して警備の兵士に声を掛けられた。

「なんだ貴様！」

「兵士の募集をしていると聞いてここに来た」

「そうか入れ」

警備兵に募集の担当者の元へ案内されるとそこにはたくさんの中世風の鎧を着けた傭兵達がたくさんいた。

（愛と平和に無縁そんな木偶の坊ばかりだな）

しばらくすると神父の格好をした人間が出て来た。神父・・・クロムウェルか！

そして右手の指輪を才人を含めて全員に向けてこう言った。指輪で洗脳するつもりだな。そうはいくか！

「ようこそ皆さん。レコン・キスタへようこそ」

指輪から出てくる魔法粒子を消滅させた才人は、魔法無効化能力を使い陣地内に魔法無効化エナジーを放出させた。

外からは、上空を滞空中のドラゴンや船が陣地に落下している。

「なんの騒ぎだ！」

「船が・・・魔法が使えない・・・」

「フライが使えん・・・」

正気に戻ったメイジは城へ逃げたりしている。

騒ぎが大混乱の中・・・才人はクロムウエルの元へ一瞬で間合いを詰めて・・・抜刀！

そして静かに鞘にデルフを納めた。

”チン”この音が聞こえるとクロムウエルの首が転がった。

右手にはめている指輪を抜き取り、クロムウエルの首を白の風呂敷に包んだ。周りは”シーン”としていて口を空けている。

才人としては生まれて初めての殺人であるが、戦場に”罪”を持ちこんだら”死”であることを自覚した。昭和の映画DVD「戦国自衛隊」で”殺人罪”を意識して重火器を取り扱っている自衛隊員がPTSDに陥り、そのせいで死んでいるのが印象に残っているのである。反日的日教組教育の弊害だね！

この世界に警察なんてないし・・・地球じゃ民間人が勝手に戦争に参加したただけでお縄になるから！

「貴様・・・」

護衛のメイジは杖を振るが魔法が発動しない。才人は念能力を使いこの場にいるメイジの杖を切った。

「これでめえらは魔法が使えねえ！」

デルフを抜刀して護衛のメイジと集められた兵士・傭兵等を全員斬り捨てた。

納刀した才人は、腰を落とし気を極限まで高めてあふれ出る気力が金色の炎となって才人の身体を纏い、しゅうしゅうと音を立てて燃え盛っている。

漆黒の髪は金色に染まって逆立ち、穏やかな目つきが獰猛な戦士のそれへと変わった。

そして天下一武道大会の悟空 VS ピッコロ戦で、ピッコロが会場・町ごと爆裂波で周囲を吹き飛ばした様にレコン・キスタの陣地を爆発させた。

威力は手加減してと……

[illegible]

ドガァァァァン!!!!

才人を中心にキノコ雲がモクモクと立ち上っていた。辺りは才人を中心にクレーターが出来上がっている！周りは物資やら人間が丸焦げになったり蒸発なんかしている。

さてと待機スタンバイしているヴァリエール軍を転移させましようか！

瞬間移動でヴァリエール城に転移した才人は、近代武装しているヴァリエール軍が出撃状態であることを確認した。観戦武官として自衛官もいる。ルイズがパパに話して軍を編成したんだね。

武装は、戦車にトラック数十台である。各自64式自動小銃を持っているし、迷彩服を着こんでいた。

ルイズパパとルイズママにルイズの姿を確認するとクロムウエルの生首を包んだモノを差し出した。

「公爵閣下、レコン・キスタの首領の御しるしです」

「おお、婿殿でかした。出来ればお義父さんと呼んでほしいんだが・・・」

「ヨッシー・・・なにそれ・・・まさか・・・生首・・・」

「うん、そつだよ・・・」

「ひゃああ・・・！！・・・」

「ルイズ！これ位で取り乱してはいけません。御苦労です婿殿。私のこともお義母さんと呼んでもらいたいのだが！」

「兎に角、今はレコン・キスタが壊滅状態なので即急にかたずけま

しょう」

才人は、”円”で全軍の兵士の気を把握してアルビオンのレコン・キスタ陣地はずれへと転移させた。

あとは、ヴァリエール軍に残敵掃討を任すことにした。

戦車砲で陣地に砲撃した後、兵士を乗せたトラックや装甲車両で突撃。

ヴァリエール軍兵士は、64式自動小銃で混乱しているレコン・キスタ兵を葬っている。ルイズパパなんか対物射撃銃で人間を木端微塵にしているし、ルイズママは64を右手に持ち左手で杖を持っている。でかいカッター・トルネードで攪乱させた後にレコン・キスタ兵に容赦なく銃弾浴びせていた。

手榴弾やロケットランチャーで混乱させて自動小銃で銃撃、近接には魔法で！ほとんどが自動小銃の餌食になっていた。

レコン・キスタの空飛ぶドラゴンは才人が全部連続エネルギー弾で殲滅しているし、船は戦車砲で木端微塵である。制空権はヴァリエール軍の龍騎士隊が敵部隊に向けて重機関銃を放ったり手榴弾を投げ込んでいた。

才人もアルビオンの龍騎士を殲滅させた後、逃走する傭兵を一人残さず葬っている。残せばアルビオンは兵匪・山賊になるからだ。

こうしてレコン・キスタ軍は、ヴァリエール軍の虐殺ともいえる相
当な火力を持って殲滅されていた。

城からは、王党派の軍が出撃して態をなしていないレコン・キスタ
兵を討取っている。

2時間にも及び一方的ともいえる戦いは終了した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0180w/>

ラブラブ夫婦転生物語 in ゼ口魔

2011年11月16日10時19分発行